



わかみどり

<http://hirabayashi-e.murakami.ed.jp>



見えない鎖

平林小学校 校長 遠藤 直人

先日、何気なくテレビを観ていた時、番組の中で「今年のあなたの目標は何ですか？」と画面越しに質問をされました。「うーん、今年の目標か…」と、何も思い浮かばない自分がいました。数年前までは、「〇〇したい！」という目標がいくつもありましたが、年々、挑戦する前に失敗したときのことを考えて、諦めてしまうようになりました。

こんなお話があります。

あるサーカスの子象は、幼い頃に頑丈な鎖でつながれました。子象は何度もその鎖を引っ張り、逃げようとしたましたが、まだ力が足りず、鎖は切れませんでした。そのうち、逃げられないと観念し、あばれるのをやめてしまいました。しかし、年月が経ち、子象は大きく成長し、今ではその鎖を簡単に切る力を持っています。にもかかわらず、大人の象は決して鎖を切って逃げようとはしません。それは、幼い頃に「鎖は切れない」という経験をしてしまったためです。この「鎖は切れない」という観念が、成長した象の心に強く刻まれてしまったのです。

サーカスの象は、幼い頃に鎖で逃げられないことを学び、その結果、大きくなってもその鎖を切ることを試しすらしません。人間も、実はこの象と似たようなことがあるかもしれません。何かに挑戦して失敗を経験すると、それを「自分にはできないことだ」と思い込んでしまい、その後同じことに挑戦しなくなることがあります。

3学期の始業式で、このお話を全校の子どもたちにしました。「校長先生の足にも見えない鎖がつながっています。どうせやってもまた失敗する、やっても無駄だと思って挑戦しないことがたくさんあります」と話しました。過去の失敗が自分の可能性を縛ることのないよう、挑戦を恐れず前に進むことが大切です。もし自分の足に今、見えない鎖がつながっているのなら、今年はその鎖を切ってみようと言えました。

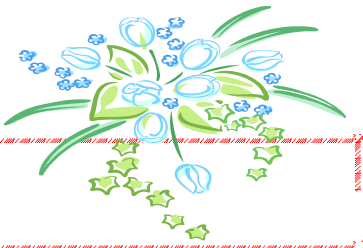
始業式の後、各教室を回っていると、1年生の女の子が私のところにやってきました。「校長先生、わたしね、今、1本鎖がつながっているから、それを必ず切るね。」と笑顔で話してくれました。女の子は続けて、「校長先生の足には何本の鎖がつながっているの？」と真剣な顔で質問してきました。「うーん」と自分の足をまじまじと見てしまいました。「両足にたくさんつながっているかも」と答えると、女の子は「そうか、がんばってね」と応援してくれました。なんだか新年からうれしい気持ちで、鎖でつながれた足を引きずりながら教室を後にしました。

コンクール入賞者

コンクールにおいて、下記のように素晴らしい成績を収めました。
入賞を果たしたみなさん、おめでとうございます。

新潟県ジュニア美術展覧会

奨励賞 6 年 さん



新潟教育アート展

奨励賞 3 年 さん 3 年 さん
 4 年 さん 4 年 さん 4 年 さん



図書の寄贈をいただきました

松和町の方々による「松栄会」様に、長年に渡り児童
図書の寄贈をいただいています。今年度も、1 万円分の
図書カードを寄贈してくださいました。早速、「大ピン
チずかん」シリーズ2冊と「パンどろぼう」シリーズ4
冊、「アナと雪の女王」を購入させていただきました。
子どもたちの読書体験を豊かにするために活用させてい
ただきます。誠にありがとうございました。

だんごの木をつくりました。

1 月 2 3 日(木)は今年最初の「超ロング昼休み」でした。今回はまちづくり協議会の方と地区
の方からご協力いただき、「だんごの木づくり」を教えてくださいました。
紙粘土で団子を作り、カラフルな色を付けて団子の木に飾りました。地域の方と楽しい時間を
過ごし、ニコニコ笑顔があふれるひと時となりました。この木を2月2日(日)11時 塩谷 円
福寺での豆まきでも飾ります。

3 学期はあと 2 回、超ロング昼休みを企画しています。
時間が合いましたら、ご参加いただけると嬉しいです。

